

～横浜港LNGバンカリング拠点整備方策検討会の議論を受けて～

横浜港におけるLNGバンカリングの機能強化を実現

昨年8月から横浜港では、日本郵船株式会社が建造し、東京ガス株式会社が燃料供給を行う日本初のLNG燃料船であるタグボート「魁」が、株式会社ウィングマリタイムサービスにより商業運航されています。

また、LNG燃料船の更なる普及を見据え、本年6月には国土交通省港湾局が事務局となり、『横浜港LNGバンカリング*拠点整備方策検討会』が設置され、横浜港をモデルケースとしてLNGバンカリング拠点の整備に関する検討を進めているところです。

このたび、検討会の議論を受け、港湾施設の利用形態の見直しにより、本日から横浜港新港5号岸壁における“Truck to Ship”方式（裏面参照）でのLNGバンカリングの機能強化を実現することになりましたので、お知らせします。

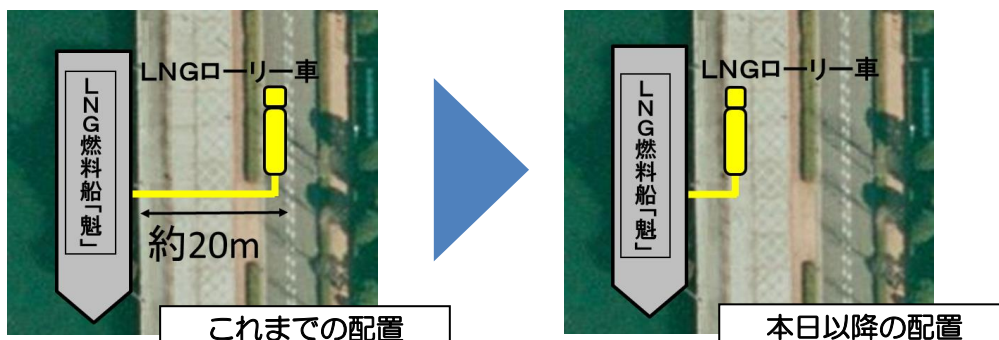
なお、本日のLNGバンカリングについては、日・シンガポール外交樹立50周年記念事業の一環として、国土交通省港湾局に派遣されているシンガポール海事港湾庁(MPA)の職員が視察いたしました。



*LNGバンカリング：船舶燃料としてLNG（液化天然ガス）を供給すること

1 LNGバンカリングの機能強化について

LNG燃料船とLNGローリー車を近接させることにより、効率化（準備作業時間の半減、作業人員の3割減）と安全性の向上（危険物取扱エリアの縮小）等が見込まれます。



2 LNG燃料タグボート「魁」の概要

(1) 船体概要

- ・全長 : 37.2m
- ・全幅 : 10.2m
- ・総トン数 : 272トン
- ・船籍 : 日本
- ・機関 : Dual Fuel (LNGと重油双方に対応)



「魁」全景

(2) 各社の役割

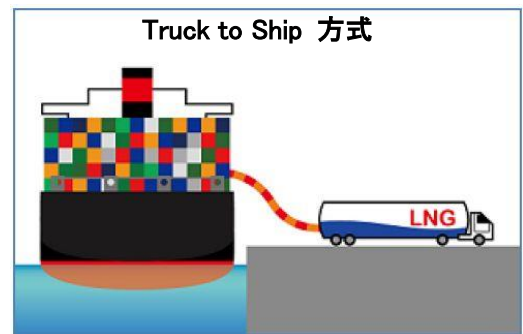
- ・日本郵船株式会社 : 船舶建造
- ・ウィングマリタイムサービス株式会社 : 船舶運航
- ・東京ガス株式会社 : LNG供給

3 “Truck to Ship”方式でのLNGバンカリングについて

タグボート「魁」への燃料供給は、Truck to Shipと呼ばれる方法で行われます。

これは、LNG燃料船が、LNG燃料を供給可能な岸壁に着岸し、陸側LNGローリー車からLNG燃料の供給を受ける方法のことです。

この他には、Ship to Shipと呼ばれ、岸壁・棧橋に着岸・着棧中または錨泊中のLNG燃料船に対してLNGバンカリング船が接舷し、LNG燃料を供給する方法や、Shore to Shipと呼ばれ、LNG燃料船がLNG燃料を供給可能な岸壁・棧橋に着岸・着棧し、陸側施設からLNG燃料の供給を受ける方法があります。



4 『横浜港LNGバンカリング拠点整備方策検討会』について

船舶の排出ガス規制で先行する北米・北欧では、クリーンなLNG燃料に対応したコンテナ船、クルーズ船などが出現しており、将来的にはアジア地域でも規制の強化に伴うLNG燃料船の普及が見込まれていることから、LNG燃料船の更なる普及を見据え、我が国港湾においてLNGバンカリング拠点を形成し、その機能を高めていくことが重要になります。

そこで、国土交通省港湾局が事務局となり、関係行政機関（経済産業省資源エネルギー庁、国土交通省海事局、海上保安庁、横浜市）、関係民間事業者（東京ガス株式会社、日本郵船株式会社、横浜川崎国際港湾株式会社）の参画を得て、横浜港をモデルケースとしたLNGバンカリング拠点の整備に関する検討会を本年6月に設置し、年内を目途にとりまとめを行うこととしております。